



第26回ふるさとまつり連合渡御

7月29日、下妻市役所旧千代川庁舎前及び旧庁舎正面前通りにおいて、「第26回ふるさとまつり連合渡御」が開催され、千代川地区の神輿や山車が一堂に会し、下妻の夏を彩りました。
会場では、威勢のいい神輿の掛け声とお囃子が響き渡り、多くの来場者で賑わいました。

真

夏のうだるような暑さの中、ふるさとまつり連合渡御が4年ぶりに開催されました。久々に神輿や山車が一堂に会した会場は約2千人の出入りがあり、集まった参加者の熱気で満ち溢れました。

千代川地区を代表するふるさとまつりは、地区の神輿や囃子などの伝統文化を通して地域の活性化と多くの人にふれあいの場をつくることを目的に行われ、下妻市ふるさとづくり推進協議会とふるさとまつり連合渡御実行委員会の主催により、今年で26回目を迎えました。

神輿8基と山車6台が集まった様子は壮観で、三味線やお囃子の演奏と「ソイヤ！ソイヤ！」と勇ましい神輿の掛け声を響かせながら沿道を練り歩きました。

沿道は多くの見物客であふれ、鮮やかなペンライトを片手に両親に手を引かれて歩く子どもたちや、色とりどりの浴衣姿でかき氷を食べる高校生など、笑顔があふれるまつりとなりました。
まつりの参加者は、「久々のまつりで、これだけの人が集まってうれしい。今年はずりまができてよかった」と話してくれました。